

日置市乗合タクシーAI活用型バージョンアップ事業

応募様式A

日置市地域公共交通会議

事業の基礎情報

実施主体	日置市地域公共交通会議
事業実施地域	鹿児島県日置市
共創の類型	他分野共創
他分野共創の類型	医療
共創パートナー	日置市地域公共交通会議（日置市）、日置市医師会、日置市内医療機関、タクシー事業者6社（ひまわり交通(株)、(有)伊集院タクシー、(有)吉村タクシー、第一交通(株)、(有)湯の浦タクシー、(有)内田タクシー）
運行形態	AIオンデマンド交通（乗合タクシー）
運行主体	タクシー事業者6社（ひまわり交通（株）、(有)伊集院タクシー、(有)吉村タクシー、第一交通（株）、(有)湯の浦タクシー、(有)内田タクシー）

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

本市は人口約46,000人、高齢化率36.7%の街であり、年齢別統計では74歳が一番多い現状がある。本市内を運行する路線バスは減便・廃止など、公共交通を取り巻く現状は厳しさを増してきている。本市としては乗合タクシー制度を構築し、住民の移動手段の確保を図っているが、乗合タクシーを利用するにあたり、制度の複雑さから利用できないなどの意見を多くいただいているところである。このようなことから、本事業を活用してAIオンデマンドシステムを活用し、効率的で利便性の高い制度への見直しを図るものである。

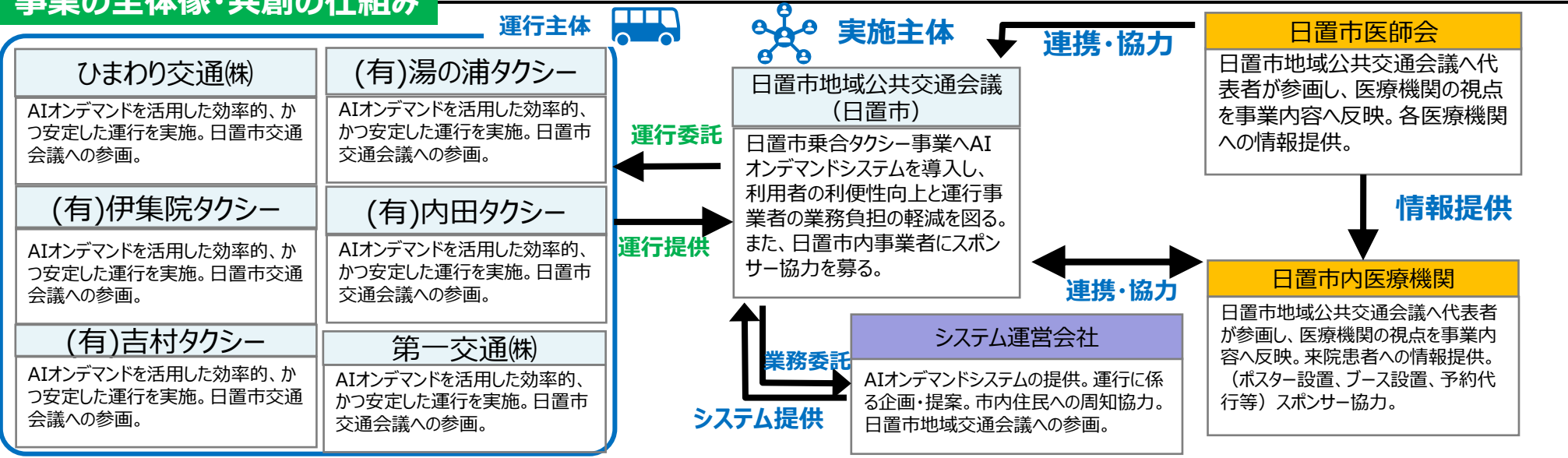
（事業の概要）

AIオンデマンドシステムを活用したコールセンター設置やアプリ導入を実施し、①高齢者のデジタル技術利用の促進や、②市民にとって利用しやすく、③事業者・自治体にとっても持続可能な交通体系の構築を目指す。また、医療機関へは情報提供ブースや予約代行システムを設置し、高齢者における制度の認知度・理解度・利便性向上を図り、利用促進と定期受診促進へ繋げる。なお、交通事業者や市民代表からなる「日置市地域公共交通会議」へ、高齢者と接点の多い医療機関の代表に参画いただき、医療機関の視点を反映した、運行時間の設定、乗降ポイントの設置等を行う。

日置市乗合タクシーAI活用型バージョンアップ事業

日置市地域公共交通会議

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

交通事業者や市民代表などからなる日置市地域公共交通会議に、新たに参画する日置市医師会、医療機関の視点を加え、本市乗合タクシーのバージョンアップに向けた協議を行い、利便性向上と制度の普及を図る。役割分担として、①交通事業者は効率的な運行内容の検討と実証運行、協議を行い、②医師会・医療機関は乗合タクシーの主な利用者である高齢者のニーズ（利用時間帯など）に応じた情報提供、③システム運営会社は協議結果を反映させたシステム構築を担うこととしている。

(実証事業により見込まれる効果)

本事業を実施することにより、市民の移動ニーズに応じた効率的かつ利用しやすい交通体系の構築が可能となる。また、交通事業者の予約受付やルート設定などの負担が軽減され、同時にAIのルート指示による運行となるので、ドライバーの地理的把握の負担も軽減され、運転手不足の課題にも対応できる。医療機関に限らず、本市では商店や観光名所も広範囲に点在していることから、そういった移動ニーズにも対応し、関係者へスポンサー協力を募ることにより、事業の収益性を高めることが出来る。医療分野においては、利用しやすい交通体系を構築することにより、患者の定期的な通院が可能となり、健康寿命の延伸を見込むことができる。

日置市乗合タクシーAI活用型バージョンアップ事業

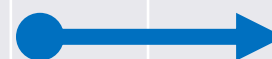
応募様式A

日置市地域公共交通会議

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

 ..日置市地域交通会議
  ..タクシー事業者
  ..日置市医師会
  ..市内医療機関

	R6.3	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3
応募													
事業内容 打ち合わせ		  		  			  						
プロポーザル 入札													
システム準備 研修 等						 							
住民向け説明会													
実証運行													

(補助事業実施後の予定)

日置市地域公共交通会議は、日置市から歳入として負担金を受け取り事業を行うことから、恒久的な事業展開を図ることが出来る。それと併せ、事業採択後から本実証事業に対するスポンサーを募り、事業の財源確保を図る。スポンサー協力に関しては、医療機関に限らず、商店、企業等に協力いただき、持続可能な運行体系の構築を図る。

実証事業終了後（R7.2～）も運行エリアや運行体制（台数等）を定期的に協議し、R8年度の本格運行を目指す。